



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

こんにちは、 碧南市訪問看護ステーションです

「碧南市訪問看護ステーション」は平成9年に「碧南市在宅ケアセンター」として事業を開始しました。以前は市役所を活動拠点としていましたが、昨年度、併設する居宅介護支援事業所とともに市民病院へ移転しました。病院を退院する皆さんが安心して在宅療養を継続できるよう退院支援に力を入れています。現在10人の看護師が、24時間体制で約100人に訪問看護を提供しています。

国の方針として病院に入院できる期間は短縮されており、退院直後の在宅療養には様々な不安があります。そんなときにお役に立てるのが訪問看護師です。

しかし、残念ながら「訪問看護」を知らない人が多いのが現状です。療養や介護に不安がある人、入院せずに自宅で暮らし続けたい人など、訪問看護を是非利用してください。

●訪問看護はだれでも利用可能

主治医が訪問看護を必要と判断した人は、年齢や病気などに関係なく、だれでも利用できます。主治医、ケアマネジャーまたは訪問看護ステーションにご相談ください。介護保険の申請がなくても利用できます。

●訪問看護の内容

- ・体調を整え、悪化を予防
- ・傷の手当、管の管理、注射などの医療処置
- ・食事、排せつ、入浴、活動などの生活支援
- ・えん下、呼吸、移動、認知症予防などの訓練
- ・環境整備、医療や介護に関する相談対応



碧南の歴史へのいざない

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.44 昔使われていた懐かしい暮らしの道具

夏冬の支度、灯りをつける、時計と電話、生活を楽しむ…。

今も昔も基本的な生活の流れは変わっていませんが、住まいのなかで使う道具は随分進化しました。

市では毎年テーマを決めて、収蔵している市史資料を展示しています。今回展示するもののなかから、「電話機」を紹介します。

写真をご覧ください。今でも使うところはあると思いますが、一昔前はこのような黒い電話が主流で、どこの家庭にもありました。初期のダイヤル式は昭和のはじめごろから使用されたそうです。



△600型電話機（市所蔵）
昭和38年（1963年）ごろから活躍

受話器を取って、電話番号を1つずつ、数字のついた穴のなかに指をいれて、ダイヤルを回して電話をかけます。その際に「ジーコロコロ」という音が鳴りました。この音を懐かしく感じる人も多いと思います。そして、現代の形に近い押しボタンでかける電話機は、日本では昭和40年代に登場しました。

今回は「住まい」をテーマに収蔵品展を開催します。黒電話を見たことがない人も、懐かしいと思った人も、ほかにもこういった昔のものをたくさん展示しますので、是非見にお越しください。

市史資料収蔵品展 ～昔のキオク 住まい編～

とき 2月6日(火)～3月11日(日) 10時～18時

休館日 月曜日

※2月12日(月)は開館し、翌日休館します。

ところ 藤井達吉現代美術館